

# 流れに乗って ... カヌーなど

環  
境

第1章 十勝の平野や  
川ができるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、今、  
そして未来へ

用  
語

さ  
く  
い  
ん



「カナレーズ札幌内川大会」のようす。カナディアンカヌー。

カヌーやイカダなどに乗って、川の流れを体感してみませんか？

明治以前には、川は大切な「道」でした。さまざまな川舟が、川を行き来していました。流れに乗ると、そのころの気分やふんいきを味わえます。( p128・p175)

また、川から見る風景は、ふだん知っているものとはまるでちがっています。きっと、いろいろな発見があるはずです。

ただし、川には危険も多くあり、最悪の時は死んでしまうかも知れません。必ず、技術やルールなどを知った人の指導を受けておこなうようにしてください。



ラフティングボート(十勝川中流部)。

## いろいろなボート

丸木舟(チブ: p128)があるといいのですが、今では太く長い木が少なくなり、切ることがもったいなくなりました。

カナディアンカヌーは、丸木舟の感じに近いものです。あわてず、ゆっくりこぐのにも向いています。

また、カヤックの多くは一人乗りで、バランスを取るのがむずかしいかわりに、小回りがきき、うまくなれば急流でも乗ることができます。

ラフティングボートやEボートはじょうぶなゴムなどでできていて、何人も乗ることができます。



カヤック。



Eボート( 2)。

## イカダ下りや「川流れ」

夏になると、十勝川や利別川などで「イカダ下り」のイベントがおこなわれます。

参加者それぞれが、古タイヤのチューブや大きめのポリ容器などをうきにしてつくったイカダに、さまざまなかざりつけをして川に乗り出しています。

イカダやボートがなくても、ライフジャケットをつけて、そのまま川の流れに乗る「カッパの川流れ」ができます。

どの体験にしても、ライフジャケットを正しくつけておこない、川をよく知っているおとなの人とおこないましょう。

( エールセンター p239 )



(上)十勝川イカダ下り。



(左)「カッパの川流れ」。(野外学習のひとコマ)

1 カヌーとカヤック：カヌーは丸木舟(まるきぶね)のような小舟(こぶね)。カヤックも広い意味でのカヌーだが、カヌー(カナディアン)はシングルパドル(ブレードが片方だけ)でこぐ舟、カヤックはダブルパドル(両方にブレードがついている)でこぐ舟である。

2 Eボート(イーボート)：10人乗りの手こぎボート。「E」には交流(Exchange)、環境(Environment)、エコライフ(Eco-life)、入門・入り口(Entrance)、簡単(Easy)、楽しく(Enjoy)、だれでも(Everybody)、体験(Experience)、教育(Education)、緊急